

予防医療から急性期、回復期、介護、健診まで。グループの リソースをフル活用して、患者のトータル・ヘルスケアに取り組む

戸田中央メディカルケアグループは、長年にわたり地域住民の医療と介護を支えてきた。120の施設を持つグループの連携機能を生かし、かつ地域医療と連携しながら、人々が長年住み慣れた場所で年を重ねていける“エイジング・イン・プレイス”の実現に向けて挑戦を続けている。



会長 中村 毅氏

- 創 立 昭和37年8月
- 病 床 数 6,357床(2022年11月1日現在)
- 職 員 数 16,092名(2022年10月末日現在)
- 事業内容 病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、クリニック、健診センター、訪問看護ステーションなどの運営
- 所 在 地 〒335-0023 埼玉県戸田市本町1-22-3
TEL 048-442-6418 FAX 048-444-2545
- U R L <https://www.tmg.or.jp>

埼玉を中心に1都4県(埼玉、東京、神奈川、千葉、静岡)で病院や介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、クリニック、健診センター等の関連事業所を展開する戸田中央メディカルケアグループ(TMG)。同グループは“愛し愛される”を理念に、長年地域の医療・介護インフラの役割を担ってきた。

「患者さまを愛し、患者さまや地域、職員からも愛される病院・施設を目指す——という思いで職員一同努めてきました。地域の皆さまが長年慣れ親しんだ地で生活し、最後まで安心して年を重ねていける“エイジング・イン・プレイス”の実現に向けて挑戦を続けています」(中村毅会長)

地域の医療および介護を支えながら歩みを進めてきた同グループ。地域の人々に愛され、昨年8月に創立60年を迎えた。

➔ 埼玉で高度医療が受けられる体制を構築

昭和31(1956)年、中村隆俊名誉会長は兄弟3人で東京板橋に「板橋中央医院(現・板橋中央総合病院)」を開院する。休みなしのフル稼働で診療にあた

り、依頼があれば東京から荒川を越えて戸田町(現・戸田市)まで往診に行くこともたびたびあった。そのため埼玉県南部に新しい病院が必要だと感じていた中村名誉会長は、昭和37年「戸田中央病院(現・戸田中央総合病院)」を開院し院長に就任する。昭和39年に開催される東京五輪を目前に控え、いずれ埼玉は東京のベッドタウンとなって発展し医療施設が必要になる、という将来を見据えての開院だった。

「それまでは当地域に大きな病院がなかったため、皆さん東京まで行かなければハイレベルな治療は受けられませんでした。名誉会長である私の父は開院当初から高度医療を掲げ、その体制づくりを行って地域医療に取り組んできたのです」(中村会長)

同院は誰もがいつでも安心して医療にアクセスできるよう24時間、日曜・祝日も対応の医療体制に加え、戸田町からの要請で救急車も用意。自ら救急隊員を編成し、地域の救急医療にも尽力した。

やがて「志木中央病院(現・新座志木中央総合病院)」「戸田中央産院」「戸田中央総合病院分院第一病院(現・西東京中央総合病院)」など、地域の要請に応じて医療施設を展開していった。

「その後、病院だけではなく、看護学校の開校、急性期以降の退院に向けてリハビリを行うリハビリテーション病院など、時代や地域から求められる施設を開設していきました」（中村会長）

こうして急性期、回復期、慢性期、終末期、介護さらに予防、健診、保健と、医療と介護をトータルで提供できる体制を構築していった。

現在同グループは病院29、介護老人保健施設6、特別養護老人ホーム1、クリニック・健診センター17、訪問看護ステーション15、関連事業所52、合計120の施設を展開するグループへと成長している。

➔ 最新機器と技術を導入し、地域医療を支える

創立以来、最新の医療機器・医療技術を導入し、高度かつ良質な医療を提供してきた同グループ。

例えば、グループ29病院および6つの介護老人保健施設の中核となる戸田中央総合病院は、平成24（2012）年に埼玉県でいち早く手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”を導入し、泌尿器科においてロボット手術を開始。現在は消化器外科（直腸がん）での運用も進めている。また、令和2（2020）年には最新鋭の放射線治療装置を導入し、従来の標準治療に加え高精度放射線治療を可能としている。

さらに昨年6月には患者の身体的・経済的負担を減らし、かつ短時間で高精度な結果を得ることを可能とした虚血性心疾患の検査システムも導入した。

「TMGあさか医療センター」でも、昨年“ダ・ヴィンチX”を導入。泌尿器科の前立腺がんや膀胱がん、腎がん、尿管がんなどで手術を行っている。

「当グループでは、最新の機器を導入して地域の高度急性期医療を担っています。そうすることで、最新医療に携わりたい、と高い志を持つドクターにも来ていただき、『大学病院に負けない医療を地元でつくっていく』という目標を実現させていくのです」（小島重信総局長）

戸田中央総合病院は、地域におけるがん診療の中

心的役割を担う「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けており、TMGあさか医療センターは「埼玉県がん診療指定病院」となっている。

➔ 高度医療人材育成に向けた教育

高度な医療を提供するためには、最新鋭の医療機器、医療技術の導入と合わせて、それを支える“人”の育成が必要不可欠だ。同グループでは施設ごとに行われる研修のほか、看護師や臨床検査技師、医療



福祉士、薬剤師など職種ごとに行われる教育研修、そして「人材開発センター」が行う多職種参加による組織横断的な教育カリキュラムと複数の育成プログラムが構築されている。

「チーム医療である地域包括ケアそしてトータル・ヘルスケアのリーダー育成においては、横串となる職種横断の学びが大切です。人材開発センターでは全職種で意見を出し合い、目指す人材像を明確にしたうえで研修プログラムを組みました。全病院・全施設、職種ミックスで研修を実施しています」（藤野浩一郎人材開発センター長）

さらに介護補助として活躍する職員に6カ月わた

る研修を設け、介護福祉士の国家資格取得に向けた支援も開始。質の高い医療や看護そして介護を提供するために一人ひとりが真摯に学びを続けている。

→ SDGsに向けた数々の施策

同グループは、令和4年に本部地域貢献推進室を「SDGs推進室」に組織変更。SDGsの「誰一人取り残さない社会の実現」に向けて力を注いでいる。その1つ、認知症の人や家族に寄り添う施設を目指す“オ

設があります。また、マンモグラフィが痛いというイメージで控える人に向けて、痛みが軽減されるマンモグラフィや、高濃度乳房など病変がより鮮明に診断できる3Dマンモグラフィ(トモシンセシス)も導入し、人にやさしい施設を心がけております。今後も、乳がん検診の重要性を積極的に発信していきたいです」(広瀬晶子SDGs推進室長)

→ 地域包括ケアシステムの中核機関を目指す

日本の高齢化は急速に進展し、2025年には4人に1人が75歳以上の後期高齢者となる社会が訪れる。目前に迫る2025年に向け、高齢者が住み慣れた地域で生活するための地域包括ケアシステムの構築は待ったなしの課題だ。そして、開設以来、地域密着を旨としてきた同グループにとって、地域包括ケアシステムはグループ運営の原点でもある。

同グループでは長年にわたり、グループ内の施設のみならず地域の医療機関と連携しながら、患者に適切な医療や介護、福祉サービスの提供を行ってきた。トータル・ヘルスケアという言葉が注目されるはるか以前に、病気の予防から回復後のケアに至るすべての段階のサービスを患者に提供してきたのだ。

「当グループには急性期病院や慢性期病院、療養型病院、老人保健施設、リハビリ病院、訪問看護ステーションなどがあり、また施設が関東圏で固まっていることから密接に連携できます。グループ内の施設や地域の先生方と協力して、地域の皆さまが、住み慣れた場所で安心して年を重ねていける、それを支える地域包括ケアシステムの中核機関になることを私たちの使命としています」(中村会長)

同グループは、今後もいっそう医療、介護、福祉、介護予防、生活支援の充実を図り、地域や行政と連携して良質な医療と介護を提供していく取り組みを進めていく。そして、SDGsに向けたアクションや社会貢献を行いながら、地域の人々から愛されるグループであり続けるだろう。



レンジリングプロジェクト”は、2030年までに全職員が認知症サポーターの養成講座を受け、認知症支援者の証となるオレンジ色のリストバンドをつけた認知症サポーターになるというものだ。また、平成19年から乳がん検診の早期受診を推奨する啓発キャンペーン“ピンクリボン運動”や“ピンクリボンウォーク”にも取り組んできた。一昨年からコロナ対応としてアプリを使って個人でエントリーする「ピンクリボン オンラインウォーク&ランin埼玉」のイベントを開催。多くの人に参加を促し、乳がん検診の重要性を伝えている。

「コロナで検診を控える人が増えていますが、当グループでは日曜日にも予約制で検診を行っている施